

CES220301 論点に対する意見（重竹）

論点1：時間軸を踏まえた各オプションの優先順位を考えるべき

夫々の取り組みは素晴らしい。問題はいつ出来るのか、いくらで出来るのか？今は不確実性が高いものが多いが、どこかの段階でそれを明確にして決着をつける必要がある。少なくとも現時点での優先順位はどうなるのかを「時間軸をふまえて横並び」で比較検討すべき。その上でどのオプションを選ぶのかの判断のタイミングと基準をセットしておく（e.g. 202X年までにコストがXXまで下がればこのオプションを選ぶ）

論点2：産業構造の議論は「守り」と「攻め」の両面から考えるべき

CO₂排出量の多い製造業は、そもそも日本の需要が減る・輸出競争力を失う中でCNが追い打ちをかけた。2050年にどの業種がどこまで日本で立ち行くのか、というのが当然に大きな論点になる（「守り」）。だがこれだけ大きなエネルギーの転換、社会インフラの転換がグローバルにおこる。これは製造業にとって大きな成長の機会ではないか？基礎化学品を例にとれば、①余剰キャパを減らすために再編・合従連衡が進む。②自社のエネルギーの脱炭素化を進める。③さらにマテリアルのグリーン化が求められる。その3つのステップを考えると、③は大きな成長の機会にならないか。将来的にバイオ系になるか、合成ケミカルになるかはまだわからない。日本でやるのか海外でやるのかもまだわからない。だがそこまで時間軸・空間軸を拡げてみると大きな成長の機会があるのではないか？産業構造にありかたを議論するのではあれば、どの業界をどこまで日本に残すかという「守り」の論点に加えて、大きな成長の機会となる可能性「攻め」を各業界がしっかりと検討すべき。（それが描けない業界は「守り」の議論だけを是々非々でやることになる）

論点3；ETS(Emission Trading Scheme)を早めに立ち上げるべき

お金の集め方は、本来まずCNのどの新しい取り組みにどれだけ必要かを決めてから、炭素を排出する側からどれくらい集めるかを定めるべき（そうしないと、意図したCNの新しい取り組みが進むとは限らない）。しかしETSについては検討を加速化して、早めに立ち上げる必要がある。ETSは排出量の見える化・測定法、業界別の枠の設定、炭素価格の設定など、設計・立ち上げ・運用に時間がかかる（欧州も10年がかりの取り組み）。当初は枠をタダにする・カーボンプライスを低めに設定するなどしてハードル下げる、その間に制度と運用を磨き上げ、必要なタイミングでいつでも効果的にこのレバーを引けるようにしておくことが重要。これにより企業サイドから見ると政策予見性が高まる。またグローバルにも日本の発言力が強まる（日本は政策的にCO₂排出をコントロールするしっかりした仕組みを持っている）。また、ETSによる回収は他の方法（CNXX税、消費税など）にくらべて、社会的受容性が高いだろう（企業サイドも一定程度は「コスト増」として価格転嫁が可能）。

以上（文責 重竹尚基）